

徳州会定例国際会議（保健省大臣会合）における
エリトリア国保健大臣
アミナ・ヌルフッセン閣下によるスピーチ
2010年3月27日

名誉議長の医療法人徳州会 徳田虎雄様

大臣大使閣下、ご列席のみなさま

みなさま

まず最初に、先にスピーチされた方々と同様に、代表団と私より、この重要な徳州会国際会議にエリトリアをご招待いただいたことならびに、東京滞在中の、議長の徳田虎雄様、医療法人徳州会の方々、友人の方々の暖かいおもてなしに、深く感謝いたします。

次に、私たちはこの機会に、徳州会ならびに名誉ある参加者のみなさまと、エリトリアでの現在の健康に関する状況ならびに私たちが直面している課題について、共有させていただきたいと存じます。

エリトリア憲法やその他の法律により、国は、国のもつリソースの範囲内で、全ての国民に対して医療サービスを与える努力をする義務を課せられています。

エリトリアの長期的なビジョンは、全ての国民が無理のない費用で質の高い保健サービスを受けることができる健康管理システムを発展させることです。

人々が健康であることは、わが国において、ダイナミックで生産的な経済や、活発な社会を確立するために、なくてはならないことです。

エリトリアでは、国全体で合計 340 箇所の医療施設があり、内訳は、病院が 26、健康センターが 52、健康ステーションが 180、診療所が 77、母子保健医療に特化した施設が 5 箇所となっています。26 の病院の中には、5 つの紹介病院が含まれ、225 人の医者と、2000 人以上の看護師、2000 人以上の准看護師が働いてい

ます。その他の専門職スタッフは、薬剤師や薬局、研究室、歯科技師、放射線技師で構成されています。

医療セクターにおける、確立された業績指標に基づけば、エリトリアは、独立後の 17 年間に於いて、国民の健康状態において、顕著な改善をみました。これらには、平均余命（LE）、乳児死亡率（IMR）、5 歳児未満死亡率（UFMR）、マラリア罹患率及び死亡率（MMMR）、産婦死亡率（MMR）が含まれます。

1995 年から 2002 年の間、平均余命は、45 歳から 51 歳になりました。乳児死亡率は、1000 人あたり 72 人から 48 人に減少し、5 歳児未満死亡率は、1000 人あたり 136 人から 93 人へと減少しました。ポリオ、はしか、破傷風は、エリトリアから成功裡に根絶されました。

ことに注目すべきは、伝染病の予防に成功したことです。マラリア罹患率及び死亡率は、1999 年までに 80%以上減少し、エリトリアは、サブサハラアフリカの中で、アブジャマラリア撃退計画の目標を満たした数少ない国の一つになりました。HIV 有病率は、1%以下に抑えられ、エリトリアは 2015 年までに、ヘルス MD の目標に到達する軌道にのったと予測されています。

医療における人材不足について述べるために、我々保健省は、保健科学と看護の大学である Orotta スクールにおいて、より多くの医療スタッフを養成していきます。これからの 5 年間の間に、Orotta スクールでは、280 人の医師と、45 人の専門家および 15000 人の看護師を養成します。また、全ての病院での検査サービスと同様に、医用画像のスタッフ養成についても改善していきます。

ですから、この機会に、徳州会そしてこの会議に参加している他の医療機関のみなさまに、ローカルな努力で協力関係を増進し発展させていくことと、エリトリアにおける医療サービスを改善するために挑戦していくことをお願いしたいと思

います。なぜならば、いずれかの一カ国にとっての健康に対する脅威は、人類に対する安全上の脅威でもあるということに、皆様のご賛同をいただけることと思うからです。病気あるいは病気の原因には、国境や国旗はありませんし、ヒモでどこかに結えられているわけでもありません。こうした考えを前提に、エリトリアは、みなさまの成功の経験から学び、良い例を見習う用意ができております。

最後になりますが、重要なこととして、医療法人徳州会とともに、日本政府によるエリトリアの医療サービス改善への継続されてきた協力関係に対し、深く感謝の意を表したいと思っております。

ご清聴ありがとうございました。